



中部横断自動車道八ヶ岳南麓 新ルート沿線住民の会ニュース

No.18 2015年6月10日 発行

自主アセスメントを始めよう

5月23日に行われた川村晃生さんの学習会では、国交省より先に自主アセスを始めようという提案がありました。私たちは、この大自然を映し出す素晴らしいアセスメントを作り上げたいと思っています。日頃、何気なく見過ごしている植物ももしかしたら希少な植物かもしれません。そのような自然に親しむ精神を持ちながらアセスメントを私たち自身でやっていきましょう。

学習会では、大気質、景観、動植物、湧水、歴史的遺産、B/C など項目を絞って効果的にアセスをする方法を勉強しました。動植物については一部自主アセスを始めています。例えばギンラン。



多くの都道府県で絶滅危惧種Ⅰ、Ⅱの指定を受けています。
(写真参照)

多くの専門家の方に各方面でお話を聞き、この八ヶ岳南麓の中央に高速道路を通すことは自然に対して壊滅的な

打撃を与えるだけでなく、私たち人間の生活環境にも甚大な影響を与えることになるということを実証していきたい思いです。

またこの地域には、独特の文化が縄文時代からあったようです。それを裏付けるものが多いの遺跡群です。道路建設によって、先人が歩んできた文化も調べることができなくなります。歴史的遺産の多い八ヶ岳南麓。やはり古代の人々もこの八ヶ岳南麓に魅入られたのでしょうか、歴史はロマンに満ちています。だからこそ、この自然や歴史を大いに調べる必要があります。アセスに向けて知ることから、このことを皆さんとともに勉強していきたいと思っています。



5.23 川村氏を講師に迎え学習会（いずみ活性化施設）

環境アセスに向け、皆様へのお願い

八ヶ岳南麓の自然について関心のある方はぜひ一緒にアセスメントに参加しませんか。動物、植物、景観、大気、湧水、史跡、なんでもかまいません。どうか沿線住民の会に足りない知識をたくさん教えてください。私たちも一緒に勉強してアセスメントに役立てたいと思っています。専門家のご意見もお聞きしたいので紹介をしていただければ幸いです。

私たち沿線住民の会は、皆さんとともにあります。皆さんの意見や提案をいただきながら、

中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会運営委員会

<連絡先> 佐々木郁子 0551-47-6260

郵便振替 八ヶ岳新ルート住民の会 0220-7-50803

<https://sites.google.com/site/odandonewroot/oshirase>

国交省の環境アセスメントをはるかにしのぐ自主的なアセスメントが作れますよう皆様のご協力をお願い申し上げます。

雨中のデモ行進と国交省道路局交渉 -第40回全国公害被害者総行動参加報告-

「なくせ公害・守ろう地球環境」をスローガンに「第40回全国公害被害者総行動」が6月3日と4日に行われた。全国から公害被害者や家族が参加し、デモ行進や省庁交渉、決起集会など多彩な行事が行われた。沿線住民の会が加盟している「道路住民運動全国連絡会」もこの「総行動」に参加し、国交省道路局と毎年交渉を行ってきた。沿線住民の会は昨年に続き二度目の参加で、6月3日の霞ヶ関デモ行進と国交省道路局交渉に9名が参加した。

この日は朝から梅雨入りと思われる雨で、高温と雨不足には恵みの雨であったが、デモをするには生憎の天気であった。集合場所の日比谷公園には、公害被害者、反原発、道路など様々な団体の参加者が続々集合、たすきやゼッケン、のぼり、横断幕を掲げ霞ヶ関一周のデモ行進が行われた。沿線住民の会の6本の登りはひととき目立った。

デモ行進終了後、午後2時から3時までの1時間、道路局交渉が行われた。横浜環状道路南線、東京外環道路、中部横断道路（八ヶ岳南麓）の3団体から事前提出された要請内容について、道路局の担当者から回答があった。残念ながら、回答はどれもおざなりで、要請に真摯に答えるものではなかった。中部横断道路（八ヶ岳南麓）の計画段階評価については、昨年7月の関東地方小委員会の評価で終わっていると、その手続きを追認するだけの回答で、沿線住民の会が指摘している様々な問題には何ら答えるものではなかった。



国交省の担当者へ質問・要請



それでも、八ヶ岳南麓で進められた計画段階評価は大変問題が多いという地元住民が大勢いるということ、道路政策の本丸である国交省道路局の若い役人には幾分かは伝わったであろうし、今後の交渉に生きるであろう。(K)

北杜市長との面談決定！

沿線住民の会と大泉町下井出地区東組高速道路反対対策委員会が5月に提出した「北杜市長に面談を求める要請書」を受け、市より6月の議会終了後に北杜市長、副市長、建設部の出席のもとで話し合いに応じるとの回答がありました。会設立当初より、市長との話し合いを要請してきましたが、今日に至るまで市民との対話が実現できなかった事は大変遺憾です。

さて、市長へ聞きたい事は山ほどありますが何から聞けばいいのでしょうか???

北杜市ホームページの中の「市長のあいさつ」では「・・・『一流の田舎まち＝北杜市』を目指し、市民の皆様とともに礎を築いてまいりたいと思います。」と締め括っています。市民の生の声をもっと聞いてもらいたい！そして市長の見解もお聞きしたい！

これまで、様々な住民団体が北杜市長との面会を求めてきましたが、実現していません。住民との継続的な意見交換を前提に、まずは「B案が望ましい」との市長単独発言の根拠の説明を求め、これまでの数々の疑問をぶつけてきたいと思います。

< 情報請求で明らかに >

2013年関東地方整備局が 環境影響評価技術検討委員会を設置!

2013年1～2月に行われた中部横断自動車道(長坂～八千穂)の地元説明会のさなか、関東地方整備局が環境影響評価(環境アセス)の手順を準備していたことが明らかになりました。

◆環境アセスに助言をする技術検討委員会

関東地方整備局は2013年2月13日、環境影響評価委員会を開催し、そこで「環境影響評価技術検討委員会(技術検討委員会)」を設置、第3回ワーキンググループの同年2月開催と関東地方小委員会の3月開催を経て環境アセスに入ることを準備していました。

技術検討委員会は、

1. 環境影響評価方法書の作成
2. 環境影響評価の項目並びに調査、予測および評価の手法の選定
3. 環境影響評価準備書の作成
4. 環境影響評価書の作成
5. 補正評価書の作成
6. その他環境影響評価の実施に必要な事項について

「中部横断自動車道(長坂～八千穂)事業の環境影響評価の手続きに係る事項のうち……必要な技術的助言を行う」役割を担うことになっていました。

技術検討委員会のメンバー(分野別)		
大気質	北林 興二	元工学院大学教授
騒音・振動・低周波音	杉山 俊幸	山梨大学教授
水質・水象・地形および地質	藤縄 克之	信州大学教授
動物 哺乳類	山本 紘治	山梨県希少物種指定等検討委員会
猛禽類(鳥類)	中村 浩志	信州大学名誉教授
昆虫類	森本 尚武	信州大学名誉教授
植物・生態系	中込 司郎	山梨県植物研究会名誉会員
景観・人と自然とのふれあいの活動の場	大山 勲	山梨大学教授



◆3年2カ月で環境アセスを終了する計画

環境アセスでは、①方法書手続きに約6カ月、②項目手法の選定手続きに約2カ月、③現地調査に約12カ月、④準備書手続きに約6カ月、⑤見解書手続きに約3カ月、⑥評価書手続きに約3か月、⑦補正評価書手続きに約6か月かけ、⑧評価書公告・縦覧を行うというもので、環境アセスの期間として①から⑦まで3年2か月を設定していました。

今回、関東地方整備局が「地元説明会」の開催中に技術検討委員会の設置と環境アセスメントのスケジュールまで立てていたことが判明したことで、国交省が2013年1～2月に開催した「地元説明会」が形だけのもので、住民の意見を聞こうとする場ではなかったことがより一層明らかになりました。住民説明会の開催は単に「住民との丁寧なコミュニケーション」の実績づくりとして開催されたものに過ぎませんでした。そのため国交省は、住民から出された新ルート案への反対や懸念の意見を初めから聞くつもりはなかったのです。これは全く不誠実な対応であり、そのことにより住民の反発や反対がますます大きくなり、計画段階評価が2年間も延びる結果を招いたことを国交省はよく考える必要があります。

八ヶ岳南麓のここが好き

「きれいな水、おいしい空気」

私が八ヶ岳南麓に引っ越してきてから12年になる。当時働いていた会社の経営が悪化し、リストラのような形で退職してから終の棲家としてこの地にやってきた。四方に高い山々がそびえ、それを朝に晩に見渡すことが出来るのは、山が好きでずっと登り続けていた私にとって無上の喜びだった。山を眺めるたびに、あそこは夏にあの人と登った、その横は冬に登ったが雪が深くて苦労したなど様々なことが思い起こされ、苦しいこともあったが楽しかった思い出にしばし浸ることができた。それは幸せを感じる瞬間でもあった。

東京からは年老いた茶トラの猫も一緒に引っ越してきた。こちらに来て、相変わらずそれが仕事のように1日中寝ているので、少しは庭にやってくる鳥などに関心を持ってもいいのにと半分あきれていた。食事をしているかトイレに行くとき以外はほとんどソファの上で横になっていたの、家族の誰かが座るたびに撫でられて安心して寝ていた。そのうちに、その猫に変化が表れてきた。撫でるたびに手触りがよくなってきて、パサパサしていた毛並みがつやつやになってきたのである。よく観察すると毛並みだけでなく、体もしまってきて体調も良くなってきた。これはどういうことかと家族で話をしたが、それは八ヶ岳南麓のおいしい水と、車の排気ガスで汚されていないきれいな空気おかげであるということに落ち着いた。食べるもの、生活習慣は以前と変わらないので、八ヶ岳南麓の自然環境のなかで体調が良くなり、自己回復の能力が高まったのだろう。

猫は21歳で天授をまっとうしたが、この自然の中で暮らせたことを快適で幸せと感じていたのではないかと思っている。

動物にとっても、人にとってもやさしく暮らしやすいこの八ヶ岳南麓の自然環境が、高速道路や太陽光パネルなどで壊されることなく、これからも変わらずにあり続けてほしいと願っている。
(高根町 T)

計画段階評価の問題点を無視し

国交省が対応方針を決定！

昨年12月26日、国交省は環境省に中部横断自動車道(長坂一八千穂)の環境影響評価に関する「検討書」を提出しました。それを受けて環境省は3月5日にこの「検討書」に関する環境大臣意見を国交省に提出しました。国交省が提出した「検討書」は2013年に改正された「環境影響評価法」での環境影響に関する「配慮書」とみなされるものです。

国交省はこれまでの計画段階評価における問題点をなんら解決することなく、手続きを進めています。今回の環境省への「検討書」には、自らミスを認めた「ルート帯案」改ざん図などもそのまま「検討書」資料として環境省に提出していることもわかりました。

環境省はこうした「検討書」の資料をもとに3月5日に環境大臣の意見を国交大臣に提出し、国交省は3月31日に計画段階評価における対応方針の決定を行いました。

4月30日、私たちは国交大臣へそのやり直しと、国交省の環境影響評価配慮書に該当する「検討書」の環境省への再提出が必要であるとの国交大臣の意見書を国交省に提出するよう要請しました。計画段階評価のプロセスには様々な問題点があり、国交省道路局が作成した「構想段階における住民参加型道路計画プロセスのガイドライン」(平成17年9月)の計画策定のプロセスにおける「透明性」「客観性」「合理性」「公正性」の要件を欠いているなど重大な瑕疵があるため、計画段階評価の手続きはいったん白紙に戻して、やり直すよう今後も働きかけていきます。

編集後記

目に青葉、山ホトトギス……八ヶ岳高原は一年で一番過ごしやすい時期を迎えている。ホトトギスが「東京特許許可局」とさえずる声を聴きながら農作業に励んでいるが、その鳴き声が「高速道路はいらない」と聞こえてくるのは、空耳だろうか。(S)